

TSH 受容体阻害型抗体 TSBAb が陰性化し、刺激型抗体 TSAb が出現して甲状腺機能低下症が改善した自己免疫性甲状腺疾患の1例

野 津 和 巳¹⁾⁴⁾ なか た のり こ¹⁾³⁾ やま もと かず ひこ²⁾
あ だち な お こ⁴⁾ な が さ わ あ つ し⁴⁾ な び か さ と し⁴⁾
足 立 奈 緒 子⁴⁾ 永 澤 篤 司⁴⁾ 並 河 哲 志⁴⁾

キーワード：TSH 受容体阻害型抗体 TSBAb, 原発性甲状腺機能低下症,
TSH 受容体抗体 TRAb, TSH 受容体刺激型抗体 TSAb

要 旨

成人における原発性甲状腺機能低下症の原因は、その多くが橋本病である。今回、TSH 受容体阻害型抗体 (TSBAb) による原発性甲状腺機能低下症を呈したまれな症例を経験した。TSBAb の消長については、その症例数が少ないこともあり、十分には明らかになっていない。本症例は14年間の経過観察中に、TSBAb が陰性化し、刺激型抗体 (TSAb) 陽性化と甲状腺機能が改善するという極めて興味深い経過を呈した症例であった。

はじめに

日常診療において、血液中の甲状腺ホルモンが低値を示した場合、甲状腺機能低下症として、甲状腺ホルモン剤による補充療法を開始することが一般的である。病名を甲状腺機能低下症として、そのまま生涯、甲状腺ホルモン剤を継続する臨床医も多い。しかしながら、甲状腺機能低下症を呈する場合、原発性あるいは続発性を鑑別すると同時に、病因論的に橋本病にともなうものか、薬剤

性などその他の原因によるものかなど追及すべき問題点が多い。そのことによって、単なる甲状腺機能低下症として甲状腺ホルモン剤による加療継続のみでよいかが問題となる。一般に、成人の原発性甲状腺機能低下症では、橋本病 (慢性甲状腺炎) にともなうものが最も多いことは周知のごとくである。他に、バセドウ病や甲状腺腫瘍での甲状腺切除術にともなうもの、あるいは放射性ヨード治療によるものなどがある。橋本病と診断することは、将来的に悪性リンパ腫¹⁾などを発症する可能性があること、その他の自己免疫性疾患を合併することがあることなどに注意して、継続観察加療をすることとなる。薬剤性²⁾の場合には、原因となる薬剤を中止することにより改善する可能性がある。また最近よく注目されるように

Kazumi NOTSU et al.

1) 大学前のつ内科クリニック

2) 同 婦人科

3) 松江生協病院内科

4) 島根県立中央病院内分泌代謝科

連絡先：〒690-0825松江市学園2丁目27-17

医療法人 大学前のつ内科クリニック